



幸せを願う大統領 のスピーチ

心
あ
っ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

ホセ・ムヒカ ウルグアイの第40代大統領 彼の個人資産は、フォルクスワーゲンのみで、大統領公邸には住まずに、首都郊外の質素な住居に暮らしている。また、給与の大部分を財団に寄付し、月10000ドル強で生活しており、「世界で最も貧しい大統領」として知られている。(ウィッキペディア参照)彼の有名な演説がユーチューブにありましたので、一部抜粋します。頭の中にある厳しい疑問を声に出させてください。午後からずっと話されてきたことは持続可能な発展と世界の貧困をなくすことでした。私達の本音は何なのでしょう？現在の裕福な国々の発展と消費モデルを真似することでしょうか？質問させてください。ドイツ人が一世帯で持つ車と同じ数の車をインド人が持てばこの惑星はどうなるでしょうか？息するための酸素がどれくらい残るでしょうか。マーケット経済がマーケット社会を作り、このグローバルセッションが世界のあちこちまで原料を探し求める社会にしたのではないのでしょうか。私達がグローバルセッションをコントロールしていますか？あるいはグローバルセッションが私達をコントロールしているのではないのでしょうか？

我々の前に立つ巨大な危機問題は環境問題ではありません。政治的な危機問題なのです。現代に至っては、人類が作ったこの大きな勢力をコント

コントロールされているのです。私達は発展するために生まれてきているわけではありませぬ。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。人生は短いし、すぐ目の前を過ぎてしまいます。命よりも高価なもの存在しません。人がもつと働くため、もつと売らなければならないのです。悪循環の中になければならないのです。これはまぎれなく政治問題ですし、この問題を別の解決の道に私たち首脳は世界を導かなければなりません。昔の賢明な方々、エピクロス、セネカやアイマラ民族までこんなことを言っています。貧乏なひととは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ。これはこの議論にとって文化的なキープポイントだと思えます。根本的な問題は私たちが実行した社会モデル輸出です。そして、改めて見直さなければならぬのは私たちの生活スタイルだということ。私の同志である労働者たちは、8時間労働を成立させるために戦いました。そして今では、6時間労働を獲得した人もいます。しかしながら、6時間労働になった人たちは別の仕事もしており、結局は以前よりも長時間働いています。なぜか？バイク、車、などのリポ払いやローンを支払わないといけないのです。毎月2倍働き、ローンを払って行ったら、いつの間にか私のような老人になっっているのです。私と同じく、幸福な人生が目の前を一瞬で過ぎてしまいます。そして自分にこんな質問を投げかけます。これが人類の運命なのか？私の言っていることはとてもシンプルなものですよ：発展は幸福を阻害するものであってはいけないのです。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、

子どもを育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらすべきなのです。幸福が私たちのもつとも大切なものだからです。環境のために戦うのであれば、人類の幸福こそが環境の一番大切な要素であるということに覚えておかななくてはなりません。ありがとうございました。

編集後記

人々の幸せを考えてくれる指導者はとてもありがたいです。私達の幸せは物を得ることではなく、人と人との関わり、愛情だということですね。国のトップの人だけでなく、国民もそう思っていてくことが大事だと思えました。そして、地球という一つ惑星に住むみんなが、地球のことを考えて、行動すれば一つにまとまれるように思いますし、今そうならなければいけない時だと思えます。愛情と地球に優しいこと、本当は同じこと、同じ方向になるはず。人にも地球にも両方にいいことなるはずだと思えました。だから幸せなのだと思えます。